

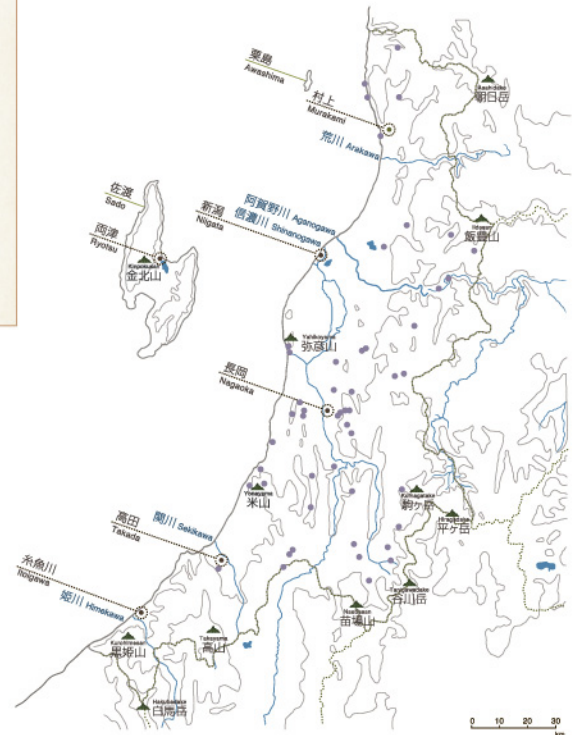


富樫信平 画 1980.10.2 新潟県荒川町産

リンドウ

Gentiana scabra var. *buergeri*
〈リンドウ科〉

日当たりの良い草地で、やや乾いたところに生える多年草。本州、四国、九州の山野に広く分布し、9月から10月に紫色の花を咲かせる。新潟県では、本種よりもやや湿ったところに生えるオヤマリンドウの方が多く見られる。数年前、ある公園の林でリンドウの存在に気付かず、8月に下草刈を行ってしまい、10月に草丈の低い花を咲かせたことがある。草花の生命の強さを感じるとともに、里山の管理の面白さを知った。 (橋本 永)



新潟県内の分布 (新潟県植物分布図集第2集1981より転載)



企画展示

9月12日(水)-11月11日(日)

人と植物の関わり展 食と植

秋の展示では、平成16年「里山の秋展」、平成17年「植物怪異伝展」、平成18年「人と植物の関わり展」を開催しました。今年は、昔から新潟で親しまれてきた野菜や作物、伝統的な食品、人々が薬や緊急の食料として利用してきた野山の植物や毒を持つ植物をテーマにしています。代用コーヒーの試飲(毎日)や越後の笹飴、あんにんごなど伝統的な食品の試食会(日曜、祭日)をおこないます。「おいしくて」「ちょっと怖い」展示もありますので、ぜひご来館ください。



救荒植物 アワ



展示場



飲食コーナー

11月14日(水)-12月26日(水)

企画展示

クリスマス展

イエスキリストの誕生日を祝うのが本来のクリスマスですが、日本では今や季節のイベントとして定着しています。クリスマスシーズンになると街やお店にイルミネーションが輝き、各家庭では思い思いにツリーを飾るなど、クリスマスの賑やかな雰囲気に彩られます。

植物園でもそんなクリスマスを楽しんでいただこうと、今年も装飾された大きなツリーを登場させるとともに、様々な色合いのポインセチアが会場に華を添えます。家庭のクリスマスをイメージした会場には、可愛らしく飾り付けられたツリーやクリスマスの装飾がもりだくさん。小さなお子さんでもできるクリスマスカード作りのコーナーも用意します。

12月16日(日)には、金津中学校合唱部、小須戸中学校吹奏楽部の皆さんから、クリスマスソングのプレゼントがあります。また12月23日の夜には美しいオカリナの旋律がクリスマス会場を包み込むクリスマスミニコンサートを開催します。12月24日と25日は開園時間を18時30分まで延長し、闇夜に輝く大クリスマスツリーが演出するクリスマスの夜をお楽しみいただけます。





温室

熱帯植物ドームに展示している「絞め殺しの木」。ガジュマルとアコウが絡み合っている

宿主を枯らした「絞め殺しの木」。木の中に入り上向きに撮影したもの。(ボルネオ島ムル山にて)

「絞め殺しの木」の役割

熱帯植物ドームの滝を抜けると、枝が張り出し絡み合った、いかにも熱帯植物らしい大きな木が生えています。この木は、ガジュマルとアコウというツル植物が何重にも絡み合っていて、生態的な特性から「絞め殺しの木」と呼ばれています。

絞め殺しの木とは、樹上で種子が発芽した後、木(宿主)に絡みつきながら生長し、宿主を締め付け、最後には覆い尽くして枯らすという特性を持つ植物で、イチジクの仲間(クワ科イチジク属)が知られています。大変恐ろしい植物のように思われる

かもしれませんが、これらイチジクの仲間には熱帯雨林において、以下のように重要な役割もあることがわかっています。

熱帯雨林は一年中高温多湿なため、多くの植物が花や果実を常に付けていると思われるかもしれませんが、実際は他の地域同様、一年中開花結実する植物はほとんどなく、果実の非常に少ない時期が数ヶ月続くことがわかっています。しかし、イチジクの仲間だけは一年中果実を付けるため、熱帯に多い果実を主食とする霊長類や鳥類などにとって大変重要な食料となっており、生態系を維持する上で要の植物(キーストーン種)と考えられています。(久原泰雅)



たわわに実るイチジクの果実。この果実は、霊長類(サルの仲間)や鳥類の重要な食料になる

園内ウォッチング



ガマズミ *Viburnum dilatatum*



サンゴジュ *Viburnum odoratissimum*



シラカシ *Quercus myrsinaefolia*



ヤマボウシ *Benthamedia japonica*



コブシ *Magnolia praecocissima*



ハウモクレン *Magnolia heptapeta*

園地

実りの秋

秋になると園内ではサンゴジュ、ガマズミなどが赤い果実をつけ、花の季節とは違った趣をみせます。私たちを楽しませてくれる果実の色や形は、植物が子孫を残していく上での重要な戦略のひとつです。植物は子孫を残すために花を咲かせ、種子をつくり、風や動物を利用して散布します。

赤や黒い果実は鳥に好まれます。鳥は色を手がかりにして果実(エサ)を探

しており、葉の緑色をバックにした場合、赤や黒い実はもともと良く目立ちます。植物は果実の色で食べ時を知らせ、種子を遠くまで運ばせているようです。大きさも、鳥が食べやすい大きさになっているように感じます。

園内には赤い果実をつけるもののほか、コナラやシラカシなどどんぐりを実らせるもの、ヤマモミジなどプロペラを持った果実をつけるものなどがあります。植物の果実の形や色は、それなりに理にかなったものが多く、観察してみるといろいろな発見があるかもしれません。(橋本 永)

NEWS 1

秋の植物園まつり

10月7日(日)・8日(祝・月)に秋の植物園まつりを開催します。

今年は、当園がある新津地区のご当地グルメとして大人気の「新津バーガー」や「新津スイーツ」、「駅弁」などの販売テントが出店します。「笹団子づくり体験会」も開催し、「食」のブースが大充実。その他にも毎回好評の「温室の裏側を探検!バックヤードツアー」、植物素材で小物を作る「花のカルチャープラザ体験教室」などイベント盛りだくさんです。

また、同時開催イベントとして、NHK「趣味の園芸」メインキャスターでおなじみの柳生真吾さんの講演会も予定しています。

秋の休日のひとときをぜひ当園でお過ごし下さい。(大谷史絵)



バックヤードツアー



植物販売

EVENT

秋の植物園まつり〈10月7日(日)・8日(祝・月) 9時30分～16時〉

- 物販
ご当地グルメ「新津バーガー」「新津スイーツ」「駅弁」などの食品や植物の販売
- 温室の裏側を探検!バックヤードツアー
両日2回開催(①11時～、②14時～)各回15名程度(先着順)
※参加希望の方は当日、温室発券カウンターにお申し込みください。
なお、参加には温室入館料が必要となります。
- 花のカルチャープラザ体験教室
両日開催 当日随時受付
※植物素材を使ったアクセサリづくりやちぎり絵など、大人も子供も楽しめる教室です。
- 笹団子づくり体験会
日時:7日 10時～12時 参加費:1,000円 定員:25名・要予約
(定員に達し次第締め切ります)
- 園芸相談コーナー
両日開催 10時～15時
- 温室内でアンケートにお答えいただいた方に植物プレゼント
※両日・先着順

同時開催イベント

柳生真吾緑花講演会「園芸は楽しい!～柳生真吾の八ヶ岳だより～」
日時:8日 13時～14時30分 会場:花と緑の研修センター2階 研修室
(※参加申込の受付は締め切りました)



園芸相談コーナー



ナンタケの果実。48年後(2055年)に当園での開花が期待される(写真提供:箕口秀夫)



ナンタケの展示状況。発芽して間もないため、まだ茎が柔らかい

NEWS 2

洋梨型の巨大果実が実る ナンタケ *Melocanna baccifera*

ナンタケは洋梨型の巨大な果実をつける大変変わったタケの仲間(イネ科メロカンナ属)で、バングラデシュおよびインド北東部に分布します。タケの仲間は世界に980種あり、本種のように熱帯に分布し、稈(かん、イネ科の茎)が株立ちするものはバンブー類と呼ばれます。ナンタケの稈は直径5cm、高さ12mほどになり、丈夫で耐久性があるため建築材などに利用され、パルプ材にもなります。果実はタケの中では大変大きく(通常のタケの果実はイネより少し大きい程度)、野球ボールくらいの大きさで、果実が親個体から離れる前に

発芽(胎生発芽)します。

タケの仲間は周期的に開花・結実する種が知られ、尺八などの材料に利用するマダケ(*Phyllostachys bambusoides*)は120年に一度、本種は48年に一度と考えられていますが、その理由は謎です。

当園の個体は、新潟大学農学部の箕口秀夫准教授がインド北東部のミゾラム州から果実を持ち帰り栽培したものです。日本の数ヶ所で栽培が予定されており、自生地から離れた場所でも周期的な開花・結実が起こるかについて、今後調査されます。(久原泰雅)

NEWS 3

植物園、10年目突入



10年前の植物園の風景



現在の植物園の風景

平成10年8月から10月に行われた「第15回全国都市緑化にいがたフェア」の会場となったのち、同年12月1日に正式開園した当園は、平成19年12月1日に10年目に入ります。

これまで、新潟県の植物園として、新潟の自然、産業と関連づけた企画展示や、植物の収集、保全、植栽、見本園の整備などを行ってきました。本州2例目のパオパブの開花や、オオオニバスの県内初開

花などのニュースがあったほか、開園当初、780種だった保有植物は、現在3,000種を超えています。これからも、地域の植物園としていっそうの充実を図っていきますので変わらぬご愛顧をお願いいたします。

満10年を迎える平成20年12月1日までの今後1年間は、この10年を振りかえりつつ、さらなる発展のための1年と考え、さまざまな催しを考えていますので、ぜひ、足をお運びください。 (林 寛子)

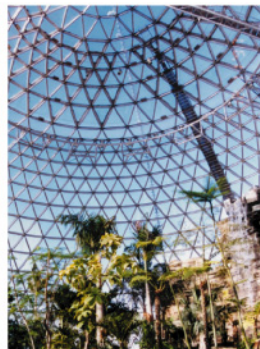
EVENT

記念事業の第1弾

「富樫信平大植物画展～ふるさとに咲く花～」

平成19年12月8日(土)～12月24日(月)

新潟市新津美術館を会場に、先号より植物園だよりの表紙を飾っている富樫信平氏の植物画250点を展示します。期間中は、県立植物園、新津美術館相互の半券割引を実施します。当園ではクリスマス展、会場となる新津美術館では「いのちへのまなざしー『原爆の図』と丸木俊・スマの世界』を開催していますので、ぜひあわせてご覧下さい。



10年前の熱帯植物ドーム風景



現在の熱帯植物ドーム風景

NEWS 4

博物館実習、インターンシップの学生を受け入れました

植物園では、今年度も博物館実習生、インターンシップ実習生の受け入れを行いました。

博物館実習では、主として、第3室住宅内の展示企画から実際の展示まで、ひとつの展示を創り上げる実習を行いました。「夏休みは植物でやってみよう」をテーマに、夏休みに大人も子どもも楽しめる、植物をつかった遊びの紹介や、花粉や細胞を観察できる展示となり、訪れる方々が笹舟をつくったり、顕微鏡をのぞいたりして楽しむ様子が見られました。

インターンシップ実習では、園内の植栽管理(除草や水やりなど)や、展示の企

画や植物クイズの問題作成などの実習のほか、展示替えや案内業務、印刷物の発送などを行いました。植物園のいろいろな仕事を、みなさん仲良く、熱心に取り組んでいました。 (林 寛子)



インターンシップ実習

博物館実習

7月31日(火)～8月10日(金)

インターンシップ実習

8月21日(火)～8月31日(金)



タコノアシ
Penthorum chinense
花序の形がタコの足に見えること
から。河川沿いの湿地に見られる。



ミズアオイ
Monochoria korsakowii
種子が土壌中に長年保存され、
工事などの攪乱により突然出
現することがある。



ミズワラビ
Ceratopteris thalictroides
絶滅が危惧されていたが、近年耕作田を中心
に多く確認される。水田管理方法の改変
や地球温暖化などの影響が予想される。

新潟の植物

「水の都」新潟

新潟平野はかつて大湿地帯で洪水などの被害が大きい土地でしたが、戦後の土地改良などにより水害は減少し、湿地もその多くが姿を消しました。しかし、紙谷智彦教授(新潟大学)が今年の「植物園の日」(5月4日)の講演で投影した新潟平野の航空写真は、水田に水が満ち、かつての大湿地帯を彷彿とさせました。水田はもちろんイネを育てるためにありますが、大水の際にはダムの役割も担うことができるとわれています。

植物はそれぞれ生育する環境に適した生活史(発芽から繁殖、枯死するまでの過程)があります。例えば、河川沿いの湿地に生育するタコノアシやミズアオイは、洪水などにより生育地そのものが流される過酷な環境で生育しますが、小さな沢山の種子が土壌中で長期間(数十年)保存され、生育可能な環境に戻った際には直ちに増殖できるため、このような環境に適した種といえます。

しかし、現在はダムや河川堤防があることで攪乱(環境が急激にかわること)が少なくなり、そのような環境に適した植物が減少していると考えられています。現在、これらの種の保全のために、新潟大学等で水田の持つダムの機能を利用する方法も検討されています。(久原泰雅)

新潟の天然記念物

上郷屋のオハツキイチョウ

五泉市上郷屋集落の諏訪神社境内にあるオハツキイチョウは、平成19年3月23日に県の指定天然記念物となりました。オハツキイチョウの名は葉に実をつけることに由来します。葉に胞子をつけるシダ類と似ることから、花は葉が変化したものであることを示唆し、植物の進化を探る上で貴重ともいわれています。いっぶう変わった形質をもつこのオハツキイチョウの存在に神秘を感じます。

この木は国内の天然記念物に指定されているオハツキイチョウの中でも最大級の幹回りを持ち、圧倒的な存在感があります。住民のオハツキイチョウに対する思いは強く、県との協議が数年にわたり続けられた結果、県指定の天然記念物となりました。

イチョウの傍にあった集会所はオハツキイチョウの生育を考え、立て替える際に、別の場所に移動したそうです。このイチョウに対する近隣住民の深い思いを感じます。(永井明子)



上:黄葉したオハツキイチョウ
右:オハツキイチョウの実



友の会通信

友の会では春に長野県環境保全研究所への視察と夏に湯沢への植物観察会を行いました。

●長野県環境保全研究所視察旅行

7月28日(土)に長野県環境保全研究所飯綱庁舎への視察旅行を行いました。研究所に行く前に立ち寄った戸隠森林植物園では雨に見舞われましたが、シキンカラマツやメタカラコウ、バイケイソウなどの花を見ることができました。ここにはミズバショウも生育していますが、踏みあらされ、果実が食害を受けた跡がありました。後で研究所の職員に尋ねたところ、ツキノワグマによるものだとの事でした。

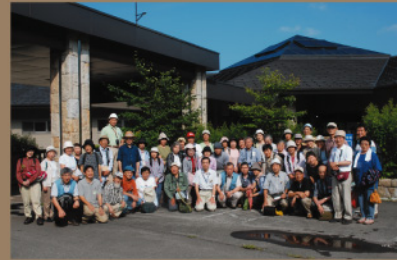
昼食後は長野県環境保全研究所へ向かいました。この研究所には約20万点の植物標本が収められており、保存するための施設も充実しています。それらの管理状況や、タイプ標本という植物を記載する際に作成する大変貴重な標本も見せて頂くことができました。県内には石澤会長が保管する約60万点を含め100万点近い標本がありますが、現在は散在し保管状態も良いものばかりではないため、今後の改善が必要だと考えられます。今回の旅行で植物標本の役割や標本館の必要性について感じていただけたのではないのでしょうか。



戸隠森林植物園:森の中に木道を通しただけの豊かな自然を活かした公園。



タイプ標本:長野県環境保全研究所の標本館に収蔵されているナベワリザゼンソウの標本。



長野県環境保全研究所前にて

ヤマジノホトギス:太平洋側に多い植物。清津溪谷で見られた。



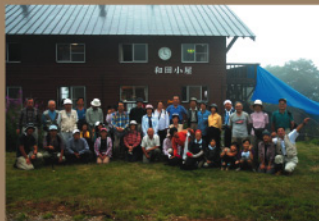
和田小屋の夜:カエデの見分け方について説明する石澤会長。



フィトンチッド広場:ブナの木に覆われた心地よい場所。昼食を取った。



左/タテヤマウツボグサ:神楽峰頂上付近で多数観察できた。右/和田小屋前にて



●湯沢植物観察会

8月18日(土)、19日(日)の一泊二日で湯沢町への植物観察会を行いました。一日目は栄太郎峠より清津溪谷に入りました。時々雨が降ってきましたが、ブナの林床を歩いていただけのため、思ったほど雨にあたらず、サルナシの果実やクサアジサイ、クルマバソウの花などを観察することができました。宿となった和田小屋では、石澤会長よりカエデの仲間の見分け方についてユーモアを交えながらお話いただきました。

二日目は2班に分かれ、一方は苗場山山頂に登り、タテヤマウツボグサやホソバコメグサ、オヤマリンドウ、タカネナデシコ、ワタスゲなどを観察しました。もう一班は山頂こそ行きませんが、神楽峰中腹の湿地まで行き、ツルコケモモやヒメシャクナゲ、アカモノ、ダケスゲなど、高山植物を多数観察できました。

これからはキノコ観察会<10月6日(土)>、秋の植物園まつり<10月7日(日)~8日(月)>や秋山郷への植物観察会<10月20日(土)~21日(日)>、クリスマス交流会<12月23日(日)>を予定していますので、ぜひご参加ください。

新潟県立植物園 友の会 平成19年度会員募集

友の会会員を常時募集しておりますので、ご興味のある方は植物園までお問い合わせください。

会員特典

- 観賞温室入館料無料
- 植物園だより、友の会ニュースレター、各種イベント案内の送付
- 研修旅行、企画旅行などイベントへの参加

年会費(4月より翌年3月まで)

- 個人会員 2,000円
- ファミリー会員(同居の家族は何人でもご利用できます) 2,500円
- 賛助会員 一口 10,000円

教室

花と緑の教室

会場:花と緑の情報センター 2階研修室
時間:10:30~12:00(12月16日のみ10:00~12:00)
参加希望の方は事前に電話でご予約下さい。

10月18日(木)●ガイドツアー「身近な雑草を見てみよう」

講師:田中良明(県立植物園職員)
定員:20名 参加費:無料

10月21日(日)●「大文字草を楽しむ」

講師:首藤洋(有限会社石塚萬花園) 定員:20名 参加費:500円

11月3日(祝・土)●「バラの育て方・春に向けての管理について」

講師:佐藤七郎(新潟ばら会副会長) 定員:30名 参加費:無料

11月25日(日)●「冬に室内で楽しむ鉢花」

講師:石川昇(新潟グリーンプラザ フレンズ社長)
定員:20名 参加費:1,500円

12月6日(木)●「新年をむかえる寄せ植えづくり」

講師:林寛子(県立植物園職員) 定員:20名 参加費:1,000円

12月9日(日)●「新年をむかえる寄せ植えづくり」

講師:永井明子(県立植物園職員) 定員:20名 参加費:1,000円

12月16日(日)●「ミニ門松づくり」

講師:片山芳宣(県立植物園専門相談員) 定員:20名 参加費:300円

体験

花のカルチャープラザ体験教室

会場:花と緑の情報センター1階 時間:10:00~15:00
※当日随時受付 ※内容は変更となる場合があります。

11月18日(日)

●「クリスマスフラワーリースとキャンドルアレンジ」

出展: Bloem Klasse 受講料:2,000円~2,500円

12月1日(土)・2日(日)

●「トールペイントでクリスマス」

出展:アトリエ Olive 受講料:700円~2,000円

展示

観賞温室第2室 企画展示

- 11月11日(日)まで 「人と植物の関わり展 食と植」
- 11月14日(水)~12月26日(水) 「クリスマス展」

観賞温室第3室 住宅内展示

- 10月2日(火)~10月28日(日) 「相沢陽一 植物画展」
- 10月30日(火)~11月11日(日) 「切手の植物図鑑」 出展:佐藤武(財)日本郵趣協会新潟県支部
- 11月14日(水)~11月25日(日) 「ハーブで作るクラフトアラカルト」 出展:ジャパン・ハーブ・ソサエティ新潟支部
- 12月11日(火)~12月26日(水) 「折紙展」 出展:(財)日本折紙協会新潟支部「はまなす」

観賞温室第3室2階 特別展示

- 10月2日(火)~11月6日(火) 「大文字草展」
- 10月6日(土)~10月18日(木) 「都市公園・植物園写真コンテスト」入賞作品展

イベント

10月7日(日)・8日(祝・月)9:30~16:00

「秋の植物園まつり」(※詳しくはP4をご覧ください)

会場:エントランス広場他

- ご当地グルメが大集合!新津バーガー・新津スイーツ・駅弁などの販売
- 植物園の裏側を探検!バックヤードツアー
- 花のカルチャープラザ体験教室(植物素材を使った小物作り)
- 植物等の販売
- 笹団子づくり体験会
- 温室内アンケート回答者に植物プレゼント(先着順)

同時開催 NHK「趣味の園芸」メインキャスター 柳生真吾緑花講演会

12月16日(日)14:00~ 「中学生による音楽会」

12月23日(日)~25日(火)「クリスマス夜間開園」

- 開館延長18:30閉館(最終入館18:00)
- 23日クリスマスコンサート 前半17:00~、後半17:40~

information

図書のご案内 温室発券カウンターにて販売しています。



「里山の植物」
2,000円

新津丘陵に植生する植物の大図鑑。約800種の豊富な里山の植物の魅力が再発見。



「ようこそ緑の夢王国 新潟県立植物園」

1,200円※お求めやすくなりました

新潟日報夕刊に連載された内容をまとめた一冊。植物に親しみきっかけに、植物園観賞のお供にぜひいかがですか。

花と緑の相談コーナー

専門相談員と職員がわかりやすく、ていねいにお答えします。来所のほか、お電話、FAX、電子メールなどでお気軽にお問い合わせ下さい。

専門相談員による相談日

- 10月…7日、8日、13日、14日、20日、21日、27日、28日
- 11月…4日、11日、18日、25日
- 12月…2日、9日、16日、23日

※変更になる場合があります。

観賞温室利用案内

開館 ●9:30~16:30(入館締切16:00)

入館料 ●大人600円、シルバー(65歳以上)500円、小中学生100円

※土日祝日は小中学生の入館料無料です。

観賞温室開館カレンダー (●休館日)

新年は1月4日から開館します。

10							11							12							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
	1	2	3	4	5	6						1	2	3							1
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8	
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15	
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22	
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30		23	24	25	26	27	28	29	

交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路 ●磐越自動車道新津ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分

一般道路 ●(新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分

JR ●信越線古津駅から徒歩約20分

バス ●区バス:新津駅東口から「うららこすど」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分

●新潟交通:新津駅東口から「矢代田」経由白根・潟東営業所行き

「新津美術館入口」下車徒歩約10分



新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地

TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410

Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp

ホームページ http://botanical.greenery-niigata.or.jp/

指定管理者 財団法人 新潟県都市緑花センター



登録範囲は、事務局、鳥屋野湖公園事務所、樂雲寺記念公園事務所、県立植物園です。

